



Medical Satellite

Vol.26(bi-monthly)Jul,2006

## Yaesu Clinic News

MEDICAL SATELLITE

発行所：医療法人社団 豊智会 メディカルサテライト八重洲クリニック

東京都中央区八重洲 1-5-9 八重洲アメリックスビル9F



0120-786-055

TEL03-3516-8020 FAX03-3516-8022

## 検査・読影体制の向上を目指して

当クリニックでは、MRI・CT 検査専門診療所として診断精度の向上に努め、皆様のご支援の下、今秋で早5年目を迎えました。

また、8月より小倉 順子 先生（下記経歴をご参照ください）を常勤医として迎えることになり、MRI × 2 台、CT × 1 台、読影医 25 名の体制で、更なる検査・読影クオリティの向上を目指しております。

今後とも、あらゆる面で改善を重ね、先生方の『検査室』としてお役に立って参りたいと存じます。何卒、宜しくお願い申し上げます。

### 【常勤医 紹介】

氏名：小倉 順子（おぐら じゅんこ）放射線科専門医

略歴：平成 4 年 3 月

日本医科大学医学部卒業

日本医科大学放射線医学教室 入局

平成 7 年 7 月～平成 13 年 1 月

日本医科大学多摩永山病院 勤務

平成 13 年 1 月～平成 14 年 3 月

米国イェール大学留学

平成 14 年 4 月～平成 18 年 7 月

日本医科大学千葉北総病院 勤務

平成 18 年 8 月～現在

メディカルサテライト八重洲クリニック 勤務

（院長の茅野に加え、日本橋医師会に入会いたしました）

勤務時間：月曜～木曜 9:00～18:00 土曜日 9:00～13:00

## 東京整形外科画像診断研究会 第1回研修会

～ 整形外科と放射線科の親密なコミュニケーションを目指して～

去る9月23日に『東京整形外科画像診断研究会』の第1回研修会が東京八重洲ホールにて開催され、整形外科医を中心に90名を超える皆様にご参加いただき、盛況のうちに終了いたしました。

この研究会は、整形外科と放射線科が協力して、画像診断の技術を高めるのみならず、お互いの親密な情報交換を通じて、診断精度の向上や臨床研究を目指すことを目的として発足されました。佐藤整形外科の佐藤公一先生が会長となられ、当院院長が副会長を、また事務局も当院が担っております。

今回の講師には、当院の読影医師であり、当研究会の幹事でもある、佐志 隆士先生と新津 守先生をお招きし、従来よりも更に有用性が高くなったMRIの最新情報を症例解説を通してご教授いただきました。当院の守屋技師も情報提供として、『整形外科領域のMRI撮像法』と題して発表いたしました。

会長の佐藤公一先生は、「症例のフィードバックが、読影の精度を高めることに繋がる」とご挨拶され、今後は会員を増やして会を充実させ、技師研修なども視野に入れたいとお話しされました。

ご入会のお申込み、会則・研修会の資料配布などは、  
当院内事務局（担当：松野）まで、お気軽にお問い合わせください。



佐志 隆士 先生



新津 守 先生

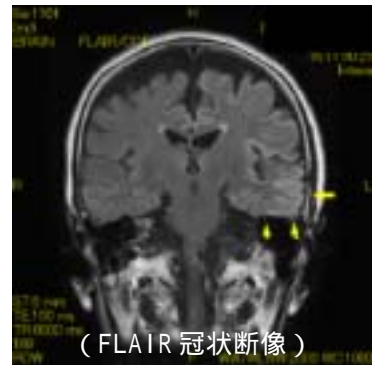
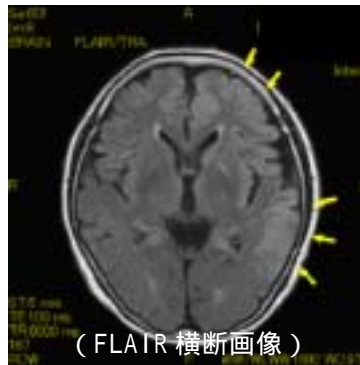
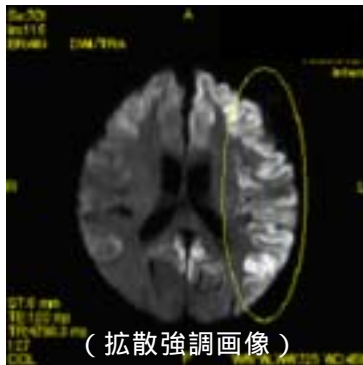


守屋 進 技師

## Creutzfeldt-Jakob 病 (CJD) の MRI

症例) 71 歳女性。

主訴) 急激に進行する痴呆症状、るいそう  
 家族歴・手術歴) 特記すべきものなし



Creutzfeldt-Jakob 病 (クロイツフェルトヤコブ病 CJD) はプリオン病の一種で、罹患すると急激に進行する精神機能低下、痙攣、視覚異常、歩行障害などのさまざまな症状が起こります。発病から半年以内に自発運動はほとんど無くなり、寝たきりの状態になります。

近年、米国からの輸入牛肉を摂取することで感染が危惧されたこの疾患は感染経路から大別して 4 つのタイプに分かれることが知られています。

### 散发性 (孤発性) CJD

発症の原因が不明なもの。

患者の多くは 50 歳以上の高齢であり若年層は稀とされています。

### 遺伝性 (家族性) CJD

プリオン蛋白の変異を原因とするもの

### 変異型 CJD

牛海綿状脳症が人間に感染したもの。

感染した牛肉を摂取することで人にも感染するとされています。

### 医原性 CJD

異常プリオンに汚染された医療器具の使用 CJD 患者由来の硬膜や角膜などの組織の移植、患者由来の下垂体ホルモンの投与など医療行為を原因とするもの。

確定診断は脳組織から変異したプリオンを検出することとされていますが、脳脊髄液中からの 14 - 3 - 3 と呼ばれる異常蛋白の検出、特徴的な脳波 (高振幅鋭徐波 PSD) 急激に進行する痴呆症状、MRI 画像などからも診断は可能となってきています。

MRI 画像としての特徴は特に拡散強調画像で著明です (図)。当クリニックで経験した症例では著明な脳萎縮と共に特に左側頭葉皮質に沿った広範な高信号の広がりが認められます (円内)。同領域に一致して FLAIR 画像においても皮質に沿って明瞭な高信号が認められます (矢印)。本症例の場合、感染経路が明らかでなく上記の分類に当てはめることはできませんでしたが、日本においても必ずしも非常に稀な疾患ではなく、上記の様な急激に進行する精神症状が出現した場合、鑑別疾患として考えなければいけない病名のひとつと痛感させられた貴重な症例でした。

(放射線科専門医 小倉 順子)